

2023年度業務実績報告書

提出日 2024 年 1 月 18 日

1. 職名・氏名 准教授・山本昌幸

2. 学位 学位 博士（生物資源学）、専門分野 水産資源学、
授与機関 福井県立大学、授与年 2006 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 海洋生産環境学（2単位） 主たる配当年次等 2年
② 内容・ねらい 海洋の生物生産過程を理解するために基本となる一次生産や物質循環，さらに，藻場や干潟などの海洋生態系の特徴を理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 生物生産過程については，基本的な考え方が身につけられるような講義を心がけ，講義の前日までは講義資料を CG に掲載することで，予習・復習がスムーズにできるようにした。さらに，身近な内湾域での環境問題などについて，研究面からのアプローチだけではなく，行政がどのような施策に基づいて，一般市民や漁業者と対応してきたかといった，これまでの県庁（行政，研究員）での経験について実例をあげながら説明した。また，講義ごとに学生の疑問点を吸い上げ，次の講義までに資料を作成し，丁寧に説明した。
① 生態遺伝学（2単位） 主たる配当年次等 3年
② 内容・ねらい 水圏生物の多様性研究における生態遺伝学的アプローチや水産育種の実例と重要性について理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 遺伝学の基本的な知識だけではなく，近年，急速に普及してきた環境 DNA やゲノム編集法についても基礎的な考え方を概説した。また，講義の前日までは講義資料を CG に掲載することで，予習・復習がスムーズにできるようにした。さらに，現在，国や地方の研究機関が行っている研究例を紹介した。
① 生物実験学（2単位） 主たる配当年次等 2年
② 内容・ねらい 魚類の年齢形質となる鱗や耳石などの観察と魚の基本的な構造を理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 マアジ，キダイ，マイワシといった身近な魚の鱗や耳石を魚種ごとに比較することで，魚種によって年齢形質が大きく異なることを理解してもらうように心がけた。さらに，魚の構造については，カタクチイワシ煮干しを用いて，脳や胃，心臓などの部位を分類することで，身近に魚の構造を知ることができることを体験してもらった。煮干しを用いることで，実習であっても，後日，自宅で復習することができるものと考えている。
① 水圏環境学実験（2単位） 主たる配当年次等 2年
② 内容・ねらい 異なる海域での動植物プランクトン採集を通じて，プランクトン採集法の基本的な考え方やプランクトンの観察方法，海域での種組成の違いを理解する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生の興味が薄れないように、一人一人プランクトンネットで採集を行ってもらい、採集物を目視確認してもらった。また、インターネットなどの情報から、プランクトンのある程度のレベルまで同定する技術を身に付けてもらうように工夫した。
① 科学英語Ⅱ (1単位) 主たる配当年次等 3年
② 内容・ねらい インターネットを用いた科学英語の検索方法、アブストラクトの基本的な形式、図表作成で気を付けるべきポイントを理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実習を通して、卒論や興味のあるテーマの論文を検索し、そのアブストラクトを和訳し、直訳ではなく、読みやすく理解しやすい日本語に修正する指導を行った。また、図表作成についても具体例を挙げながら、説明を行うように工夫した。
① 基礎演習 (1単位) 主たる配当年次等 3年
② 内容・ねらい 興味のあるテーマの論文を読み、さらに他者の発表では、積極的に質問をし、議論に参加して専門分野および異分野の研究内容を科学的に理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 論文選定については、可能な限り学生の自主性を尊重している。ただし、他者への説明（プレゼンテーション）資料作成時には、ディスカッションを通して、論文の理解度をあげるように心がけた。
(2)その他の教育活動
内容 開放講義 金津高等学校 学問発見講座「地魚を食べて、SDGsに貢献」(2023年12月14日) 短期研修(インターンシップ) 若狭高等学校海洋学科(2023年11月15, 17日)

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【0 本】
② 学術論文（査読あり）	
1. Introgressive hybridization in the west Pacific pen shells (genus <i>Atrina</i>): Restricted interspecies gene flow within the genome. Sekino M., Hashimoto K., Nakamichi R., <u>Yamamoto M.</u> , Fujinami Y., Sasaki (2023). Molecular Ecol. 32, 2945-2963. (2023 年 2 月) 2. Potential impact of predation by larval Spanish mackerel on larval anchovy in the central Seto Inland Sea, Japan. Deguchi W., Fujita T., Yoneda M., Kono N., <u>Yamamoto M.</u> , Harada K., Shoji J., Tomiyama T. (2023). Deep Sea Res. Part II: Topical Studies in Oceanogr., 208, 105272. (2023 年 2 月)	
	【2 本】
③ その他論文（査読なし）	【0 本】
④ 学会発表等	
*1. 「瀬戸内海における PPR%に基づく漁獲量管理の提案」山本昌幸. 瀬戸内海水産環境研究集会（2023 年 11 月，口頭発表） *2. 「イイダコの体重と産卵数および卵サイズの関係」山本昌幸. 水産増殖学会大会（2023 年 12 月，口頭発表）	
	【2 件】
⑤ その他の公表実績	【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学内】	
・ ステップアップ研究支援（個人研究推進支援） ・ 戦略的課題研究推進支援（分担者）	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
・ 水産海洋研究 評議員（2023.3～現在に至る） ・ 水産海洋研究 活性化委員 副会長（2021.2～現在に至る） ・ 水産海洋研究ナイトセッション「調査船における乗船調査員のお悩み情報交換会」（2023 年 11 月 10 日，札幌市かでの 2.7）企画委員 ・ 水産海洋研究 第 12 回日本海研究集会「自然に恵みを利用した増養殖研究の新たな可能性を考える」（2023 年 12 月 2 日，小浜キャンパス）世話人 ・ 水産増養殖学会第 21 回大会（2023 年 12 月 2 日，小浜キャンパス）世話人 ・ 稚魚研究会（2023 年 12 月 16～17 日，かつみキャンパス）大会開催幹事	

5. 地域・社会貢献活動

①	-1 外部有識者「中央ブロック資源評価（ニギス太平洋系群，イカナゴ伊勢・三河湾系群，マアナゴ伊勢・三河系群，シャコ伊勢・三河系群）」，（国研）水産研究・教育機構，2023年4月～現在に至る
①	-2 外部有識者「トラフグ伊勢・三河系群資源評価」，（国研）水産研究・教育機構，2023年4月～現在に至る
②	-3 外部有識者「キンメダイ太平洋系群資源評価」，（国研）水産研究・教育機構，2023年4月～現在に至る
③	-4 外部有識者「令和5年度水産資源研究所交付金研究プロジェクト」，（国研）水産研究・教育機構，自主的資源管理の実践とその効果検証に関する事例集作成にかかる外部専門家，2023年度
④	水産庁委託事業「令和5年度豊かな漁場環境推進費」分担研究者，瀬戸内海の貧栄養化によるカタクチイワシ等の小型魚類の加入量変動機構の解明，2023年度
⑥	福井県立大学開放講義 金津高等学校「地魚を食べて，SDGsに貢献」（2023年12月14日）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・海洋生物資源臨海研究センター運営連絡会議 【学部】 ・ランチタイムセミナー世話人
(3)学内行事への参加
・入試説明会（足羽高校，2023年7月7日） ・ランチタイムセミナー「瀬戸内海東部におけるマダイ資源の増大と環境変動の関係」（2023年6月23日） ・オープンキャンパス前日イベント（2023年8月5日） ・ミニオープンキャンパス（2023年10月8日）
(4)その他、自発的活動など
・福井県立大学海洋生物学部 X（旧：ツイッター）への投稿：9回（小浜魚市場の情報など）